

「一人学び」するには・・・。



指で文字をおさえて読む
文章と具体物をかさねてイメージ化

教師の発問一言ですぐに理解できる子どもと、何回もかみ砕いて発問しないと理解できない子どもと能力に差はある。だからこそ個に応じた支援を工夫しなくてはならない。それが教師の授業力。例えば、1年生。

文字を覚えたばかりで、単語の意味は難解。我々で言うと、英語や韓国語、中国語など外国語の読み方は分かっても単語として理解できていないレベルと置き換えて考えてみよう。

まずは問題の意味を理解させ、次に具体物を示したり、操作活動を用いたりし理解させることが大切だろう。特に低学年は児童の理解力・学習状況を的確に判断し指導する技術や理解力が教師には求められる。低学年は学習への意欲の基礎を築く段階。「勉強キライ！」にならないように重要な学年。

学び姿勢を支えるには・・・。



学習に向かう姿勢が大事とつくづく子どもの姿から感じる。チャイムが鳴る前に席に着く。「勉強するぞ！」と意気込みが感じられる。背筋も伸びる。
こんな子どもの姿を求めるならば①できたこと、がんばっていることを教師が細かくキャッチしとにかくほめる。②学習のルールを定着させる。(勉強がわからないことは叱ることはない。わからせることが教師の仕事。ルールを無視して勝手な行動をすることは叱る。人を差別することは叱る。民主的な集団作りには教師の人権感覚・意識とぶれない姿勢が大切。)③わかる発問。④休み時間や放課後のふれあい。

「とも学び」を成功させる



何を話すかははっきり分かったら子どもは話す

話すことを評価する

教師が解決しようとしな

①課題設定

- * 45分間の「めあて」→「めあてボード」「見通しボード」
- * 単元目標・計画→5・6年の国語・社会で実施している。算数科・理科でも実施。
- * 何をみんなで解決させるのか、一人一人の児童が「とも学び」する課題を把握する。

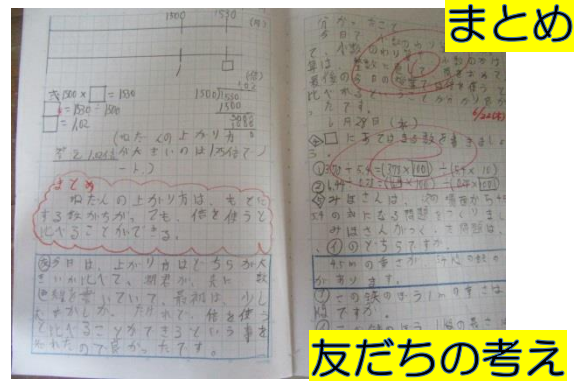
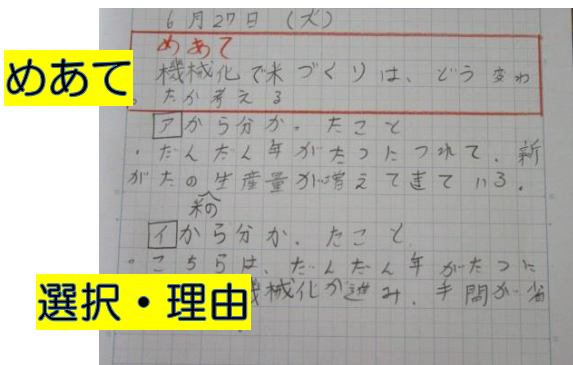
②人間関係（学習集団づくり）

- * 互いを大切にする関係（相手の話を聞く・困っていたら助ける）→教師の評価・温かいまなざし
差別を許さない姿勢

③「学び方book」ことばの技を教える！



ノート指導→板書計画（算数・国語・理科・社会・道徳）を適切に！



友だちの考え

4教科の基礎力は確実につける

- * 標準学力調査の結果を分析し「評定1」児童を0にする。
- 特に喫緊の課題は4年生2名の学力（算数・国語・理科・社会）をあげる。
- 指導が困難と思う場合は必ず職員間で共有し自己の指導の改善に努める。
- 教師は子どもの発想以上の知識を持って授業に臨む。教えるのが教師の仕事。しかし直接指導だけに陥らないように・・・。「とも学び」は間接指導。また、できないことを叱らない。とことん教える。

